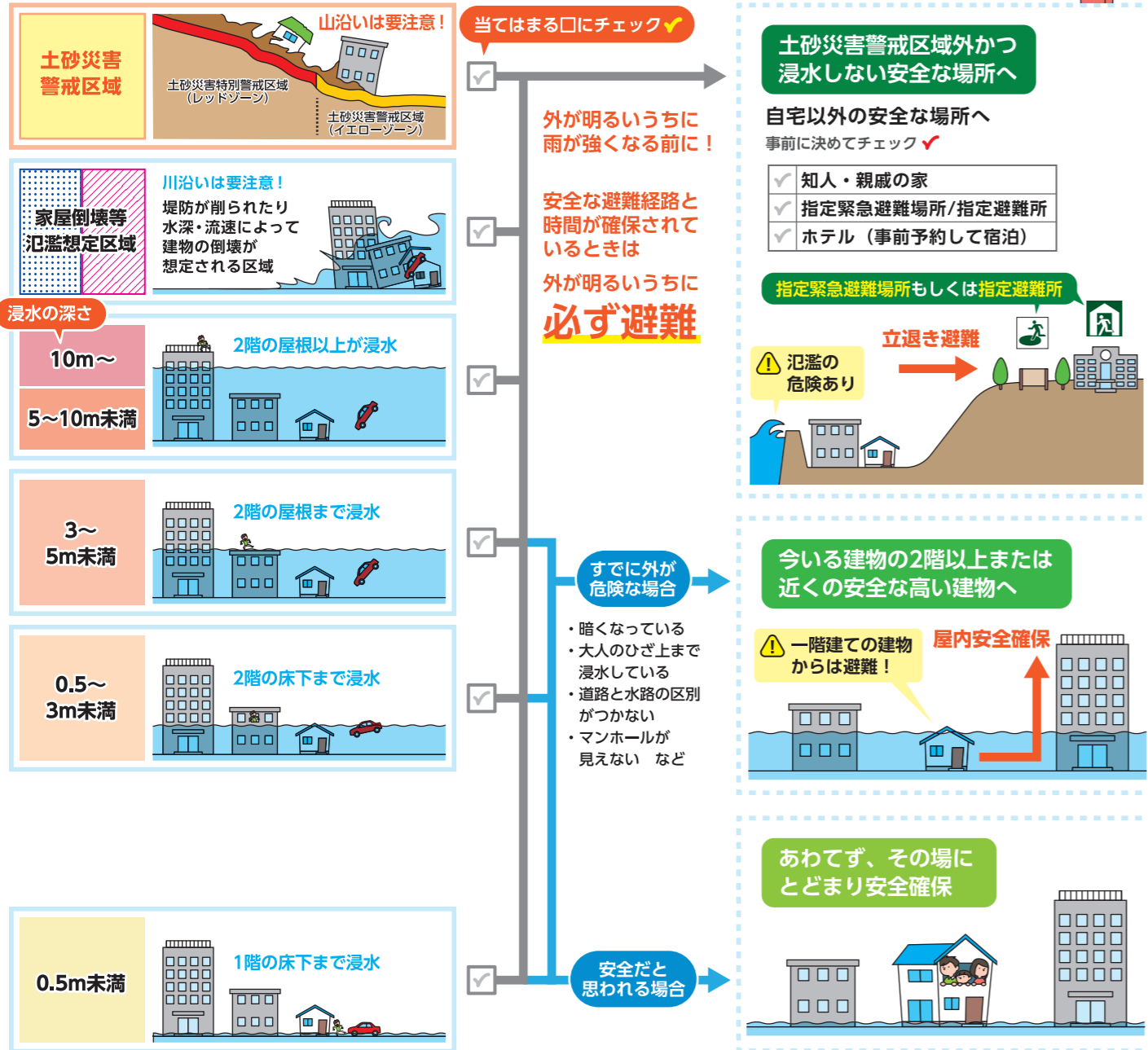


避難判断フロー

防災ハザードマップでは、洪水や土砂災害が起きたときに想定される被害を確認することができます。自宅や職場などの被害想定を確認し、状況に応じた避難をしましょう。

「いつ」「どこに」「どうやって」避難するのか、家族で話し合っておきましょう。



栃木市では災害に備えて、災害種別ごとに避難場所などを指定しています。ただし、全ての避難場所が一斉に開設されるわけではなく、優先的に開設する避難場所を設定しています。優先的に開設する避難場所は **P87~88** をご覧ください。

指定緊急避難場所



生命の安全を確保するため緊急に避難するところです。その場所にそのまま滞在することは想定されていません。

指定避難所



災害により自宅に戻れなくなった場合、一定期間避難して生活を行うところです。栃木市においては、多くの指定避難所が、指定緊急避難場所を兼ねています。

計画的な避難

避難とは、「難」を「避」けることです。安全な場所にいる方は、避難する必要はありません。警戒レベル3、警戒レベル4が発令されたら、危険な場所から避難できるよう計画的な避難行動を考えておきましょう。

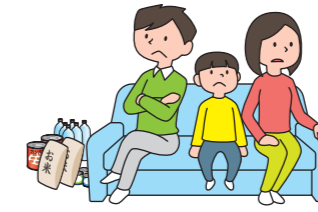
計画的な避難行動

立退き避難



避難行動の基本です。栃木市が指定する避難場所や近隣のより安全な場所・建物などへ移動する避難です。 **P87~88**

屋内安全確保



あらかじめ自宅の安全性が分かっている場合の避難行動です。2階以上への避難の場合、長時間の孤立に備え、水、食料などを備蓄しておきましょう。

緊急的な避難行動

緊急安全確保

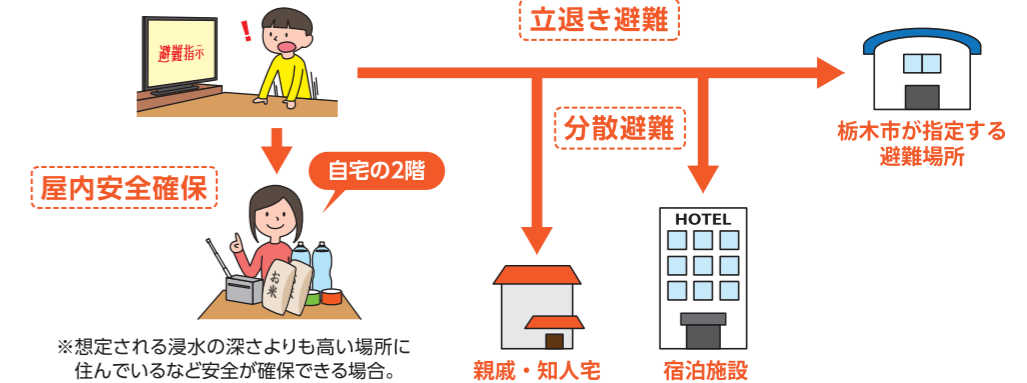


逃げ遅れた場合の避難行動です。身の安全を確保できるとは限りません。

分散避難

避難先は、避難場所(小学校や公民館など)ではありません。親戚・知人宅や宿泊施設への避難もあらかじめ考えておきましょう。

避難指示



避難の心得

避難するときは隣近所で声をかけ合い、なるべく複数人で避難するようにしましょう。また、夜間の移動は危険なため、早めに避難しましょう。

移動は二人以上で、みんなで助け合って避難を



一人だと、いざというときに助け合えません。避難するときは隣近所の高齢の方や障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

避難は動きやすい服装で



長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

夜間の避難は要注意!



夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

土砂災害に遭遇したら



屋外で土砂災害に遭遇したら、かけ崩れの場合…斜面から離れる方向へ土石流の場合…谷筋に対して直角に逃げましょう。

危険な場所には近づかない



地下道や地下空間、河川の近くは浸水の可能性が高く、危険です。また、斜面は崩れ落ちる危険があるので、近づかないようにしましょう。

流れのある場所には近づかない



ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。河川や流れのある場所に近づかないようにしましょう。

浸水している場所には注意が必要



浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。